

消防年報

平成29年版

第62号



シンボルマーク 「ファイ太くん」

瀬戸市消防本部

はじめに

平成28年4月に発生した熊本地震では、2度にわたる震度7の強い揺れにより、同地域一帯が甚大な被害を受けるなど、自然災害の脅威を目の当たりにし、自然災害に対する防災・減災の重要性を再認識させられました。

また、12月に発生した新潟県糸魚川市大規模火災では、強風や飛び火により約40,000平方メートルが焼失するなど、木造建物が密集した地域において、取り組むべき、火災予防、消防活動、消防体制等の充実強化のあり方について、再検討させられました。

これから迎える超高齢化社会などの様々な社会的背景から見ても、このような大規模かつ広域的な災害に対しては、防火防災関係機関や地域の枠組みを越えた協力体制を確立することが、防火・防災のためには必要不可欠であると言えます。

本市はこれからも、消防力及び消防体制の充実強化に努め、火災などの災害を未然に防止するだけでなく、自然災害への万全の備えによって、安全・安心が実感できるまちづくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

この年報は、平成29年4月1日現在における消防体制並びに、平成28年中の災害状況等を収録し、今後の消防行政の効率的な運営と消防力の強化に資するとともに、消防事情を一般に紹介することを目的に編集したものです。


消防関係者はもとより、市民一人ひとりにこの年報をご活用いただければ幸いです。

平成29年7月

瀬戸市消防本部





一 目 統 計




平成29年4月1日現在

| | | | | |
|----------------|---|---|--|---|
| 面積・人口等 自然環境 | 面積 | 人口 | 世帯 | 気象 (H28年中) P49 |
| |  |  |  |  |
| | 111.40 km ² | 130,298 人 | 54,916 世帯 | 年平均気温 16.4℃ 年平均湿度 72.4 % 年間降水量 1,668 mm |

| | | | | |
|--------------------|---|---|--|---|
| 消 防 予 算 構 成 人 員 | 消防予算 P1 | 署所数 P5 | 職員数 P6 | 団員数 P7 |
| |  |  |  |  |
| | 12億5,627万円 市民一人当たり 9,641円 | 消防本部 1 消防署 1 分署 2 | 125人 (内女性2人) | 268人 (内女性18人) |

| | | | | |
|----------------|---|---|--|---|
| 消 防 車 両 水 利 | ポンプ車等 P5 | 特殊車両等 P5 | 救急車 P5 | 水利 P16 |
| |  |  |  |  |
| | タンク車3台 ポンプ車4台 | はしご車等14台 | 高規格救急車4台 | 消火栓 2,963基 防火水槽等 526基 (その他の水利を含む) |

| | | | | |
|--------------------|---|---|--|---|
| 災 害 件 数 (H28年中) | 火災 P26 | 主な火災原因 P27 | 救急 P36 | 救助 P44 |
| |  |  |  |  |
| | 36件 出火率2.8件/万人 | たきび6件 放火・放火の疑い3件 たばこ2件 こんろ2件 | 出動件数5,304件 搬送人員5,063人 | 出動件数54件 救助人員26人 |

| | | | | |
|--------------------|---|---|--|--|
| 予 防 消 防 関 係 団 体 | 防火対象物 P17 | 査察実施率 P18 | 危険物施設 P20 | 消防関係団体 P22-24 |
| |  |  |  | 危険物安全協会 319 会 員 自衛消防連絡協議会 16 事業所 婦人防火クラブ 10 クラブ 少年消防クラブ 30 クラブ 幼年消防クラブ 26 クラブ |
| | 4,622 件 | 20.6% | 製造所 3 件 貯蔵所 222 件 取扱所 110 件 | |

平成28年度目標達成指標

| 指標 | 単位 | 基準値 | 目標値 | 実績値 |
|-----|----|-----|-----|-----|
| 出火率 | 件 | 5.2 | 4.0 | 2.8 |

※ 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいう。

(P26参照)

| 指標 | 単位 | 基準値 | 目標値 | 実績値 |
|-----|----|------|------|------|
| 救命率 | % | 20.0 | 26.0 | 16.7 |

※ 救命率とは、目撃のある突然心肺停止及び除細動が必要な心電図波形（Vf・脈のないVT）である救急患者のうち、1か月後に社会復帰できた割合をいう。

(P42参照)

| 指標 | 単位 | 基準値 | 目標値 | 実績値 |
|-------|----|-----|-----|-------|
| 消防団員数 | 人 | 228 | 272 | 251 ※ |

※ 平成29年3月31日現在（4月1日現在253名）

| 指標 | 単位 | 基準値 | 目標値 | 実績値 |
|----------|----|------|------|------|
| 消防水利の充足率 | % | 98.0 | 98.7 | 98.6 |

(P16参照)

| 指標 | 単位 | 基準値 | 目標値 | 実績値 |
|----------|----|---------|---------|--------|
| 火災による損害額 | 千円 | 120,601 | 106,800 | 40,556 |

(P26参照)

平成28年度のトピックス

1 放火による火災が2年連続、過去10年間で最少に！！

平成28年中に瀬戸市で発生した火災は36件で、昭和45年から記録を始めて以来、最少であった平成27年に次いで、2番目に少ない火災件数となりました。

火災による死者は、発生しませんでした。負傷者が5名発生しました。

放火・放火による疑いは、安心・安全パトロールの成果などにより、昨年と同数の3件で、過去10年間で最少となりました。

全国的にも件数が多い、放火、たばこ、コンロによる火災の防止対策を継続するとともに、住宅火災による高齢者の死傷者が多いことから、高齢者に対する住宅防火対策に取り組む必要があります。

2 東分署のポンプ車を更新

平成11年から運用していた東分署のポンプ車を、最新の車両に更新しました。

新型車両は、最新資機材を積載するほか、高輝度の反射材の採用による視認性の向上、収納扉のオールシャッター化による落下防止など、安全管理面も向上させています。



3 山口分団・女性分団の設立

山口連区及び八幡台の地域防災力を充実強化するために、平成28年4月1日に新たに山口分団を設立しました。

また、女性団員の活躍を推進し消防団の活性化を図るため、平成28年同日、女性分団（愛称：Seto つばっきい）を設立しました。

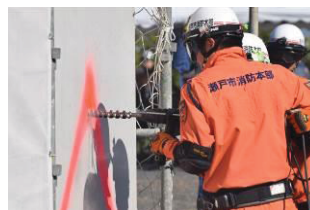
女性団員は、平成17年から団本部に所属し、心肺蘇生法の指導や防火防災講話などの普及啓発活動を行ってきましたが、組織が強化されるとともに女性の視点による新たな取り組みの展開が期待されます。



4 緊急消防援助隊が瀬戸市に集結

大規模災害に対応できるよう部隊の集結訓練及び実践的な部隊運用訓練を実施し、より迅速かつ効率的な活動を実現させるため、瀬戸市市民公園で緊急消防援助隊愛知県大隊合同訓練を行いました。

愛知県内の消防本部から消防車約40台、航空部隊のヘリコプター2機、災害医療チーム、瀬戸市消防団、瀬戸旭看護学生等が参加しました。



5 住宅密集区域における消防力の増強

平成28年12月に新潟県糸魚川市の住宅密集区域で発生した大規模火災を受け、住宅密集区域における建物火災発生時の出動体制を強化しました。

また、アーケードをはじめとした住宅密集区域での火災を想定し、朝日町防災会、末広町防災会と連携して、消防訓練を実施しました。



6 深川分団詰所が完成

昭和35年に建築してから56年が経過し、老朽化した深川分団詰所の建て替え工事が完了しました。

新設の詰所は、消防分団の詰所とは思えないほどモダンな外観で、多目的会議室や非常電源、雨水タンク等の地域防災拠点機能を盛り込み、消防団詰所の充実強化を図りました。



目 次

【第1編】消防情勢（P1～10）

| | |
|-----------------------|----|
| ・5年間の市当初予算等と消防費 | 1 |
| ・平成28年度一般会計当初予算額 | 1 |
| ・平成28年度消防費の市民負担額 | 1 |
| ・消防本部・消防署・消防団組織図 | 2 |
| ・消防本部消防課の事務分掌 | 3 |
| ・消防署の事務分掌 | 4 |
| ・消防力の整備指針と現有消防力 | 5 |
| ・消防職員数 | 6 |
| ・消防団員数 | 7 |
| ・消防職員・団員数の推移 | 7 |
| ・消防職員・団員の平均年齢の推移 | 7 |
| ・消防職員派遣教養科目別実施状況 | 8 |
| ・消防職員研修実施状況 | 8 |
| ・消防職員・団員公務災害等発生状況 | 8 |
| ・消防本部車両運用状況 | 9 |
| ・消防団活動状況、ガンバレ消防団応援事業所 | 10 |

【第2編】消防施設（P11～16）

| | |
|-------------|----|
| ・消防庁舎等設置状況 | 11 |
| ・消防車両等配備状況 | 12 |
| ・主な消防機器保有状況 | 14 |
| ・水防用資機材備蓄状況 | 15 |
| ・消防水利設置状況 | 16 |

【第3編】予防（P17～25）

| | |
|------------------|----|
| ・連区別防火対象物状況 | 17 |
| ・中高層建築物・地階用途別状況 | 18 |
| ・査察実施率の推移 | 18 |
| ・防火管理者選任状況 | 19 |
| ・防火管理講習実施状況 | 19 |
| ・危険物施設等連区別設置状況 | 20 |
| ・危険物施設に関する申請等の件数 | 20 |
| ・危険物施設等の10年間の推移 | 21 |
| ・消防関係団体 | |
| ・瀬戸市危険物安全協会 | 22 |
| ・瀬戸市自衛消防連絡協議会 | 22 |
| ・瀬戸市婦人消防隊連絡協議会 | 23 |
| ・瀬戸市少年消防クラブ連絡協議会 | 23 |
| ・瀬戸市幼年消防クラブ | 24 |
| ・防災会 | 24 |
| ・わんわん消防隊、救急安心たまご | 25 |

【第4編】火災統計（P26～35）

| | |
|-----------------------|----|
| ・平成28年中の火災発生状況と前年との比較 | 26 |
| ・原因別・用途別火災状況 | 27 |
| ・初期消火実施状況調 | 27 |

| | |
|----------------------------|----|
| ・ 出火原因別（発火源・経過・着火物）火災発生件数 | 28 |
| ・ 署所別・連区別火災状況 | 29 |
| ・ 曜日別・月別火災状況 | 30 |
| ・ 天候別火災状況 | 30 |
| ・ 時間別火災状況 | 31 |
| ・ 10年間の火災状況 | 32 |
| ・ 10年間の出火件数と住宅火災件数及び損害額の推移 | 32 |
| ・ 10年間の住宅火災の状況 | 33 |
| ・ 10年間の住宅火災における出火原因別件数 | 33 |
| ・ 10年間の住宅火災における時間別死傷者数 | 34 |
| ・ 10年間の住宅火災における年齢別死傷者数 | 34 |
| ・ 10年間の主な火災 | 35 |

【第5編】救急・救助統計（P 36～45）

| | |
|--------------------------|----|
| ・ 事故種別救急出動件数及び搬送人員 | 36 |
| ・ 署所別救急出動件数 | 37 |
| ・ 連区別の老年人口率と救急搬送率 | 37 |
| ・ 曜日別・月別救急出動件数 | 38 |
| ・ 時間別救急出動件数 | 38 |
| ・ 傷病程度別搬送人員 | 39 |
| ・ 年齢区分別搬送人員 | 39 |
| ・ 急病にかかる疾病分類別搬送人員調 | 40 |
| ・ 事故種別医療機関別搬送人員調 | 40 |
| ・ 救急隊員の行った応急処置状況 | 41 |
| ・ 応急手当普及啓発実施状況 | 41 |
| ・ 救命率の推移 | 42 |
| ・ バイスタンダーCPR実施状況 | 42 |
| ・ AEDステーション認定事業所数 | 42 |
| ・ 10年間の現場到着平均所要時間の推移 | 42 |
| ・ 10年間の救急出動件数 | 43 |
| ・ 急病・交通・一般負傷の出動件数10年間の推移 | 43 |
| ・ 事故別救助出動状況 | 44 |
| ・ 連区別救助出動件数 | 44 |
| ・ 発生場所別救助人員 | 45 |
| ・ 10年間の救助出動件数 | 45 |

【第6編】通信・気象（P 46～49）

| | |
|------------------------|----|
| ・ 消防指令センターの主な施設状況 | 46 |
| ・ 月別119番受信状況（受信時の種別） | 46 |
| ・ 無線施設状況 | 47 |
| ・ 月別気象状況 | 49 |
| ・ 天候別日数調・月別気温状況・月別湿度状況 | 49 |

【第7編】資料（P 50～54）

| | |
|------------|----|
| ・ 消防本部の沿革 | 50 |
| ・ 消防相互応援協定 | 54 |

市 勢 概 要

瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100～300mの小高い山々に囲まれ、気候も温暖なまちで、「せともの（瀬戸物）」という言葉が、やきものの代名詞として広く知られています。

良質で豊富な陶土に恵まれたこの地で、先人たちは新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「せとものまち」を発展させてきました。

長年受け継がれてきたやきものづくりの卓越した技は、多種多様なやきものづくりに繋がり、陶器と磁器が共存する稀有な産地であるだけでなく、ノベルティ（置物・装飾品）、ファインセラミックスなどが生産され、今も新しいものづくりが続けられています。

| 年別 | 項目 | 変 遷 | 面 積 (km ²) | 人 口 (人) | 世 帯 |
|--------|----|---------|------------------------|---------|--------|
| 昭和 4 年 | | 市 制 施 行 | 28.01 | 31,276 | 6,916 |
| 昭和26年 | | 水野村合併 | 50.67 | 54,779 | 11,670 |
| 昭和30年 | | 幡山村合併 | 71.36 | 64,681 | 13,588 |
| 昭和34年 | | 品野町合併 | 110.34 | 79,449 | 16,636 |
| 平成29年 | | 4月1日現在 | 111.40 | 130,298 | 54,916 |

